

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「ひとと まちと お練りまつり」祭りの原点と新時代への継承 事業
事業主体 (連絡先)	飯田商工会議所
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	8,331,400 円 (うち支援金: 0 円)

事業内容

令和4年3月の「飯田お練りまつり」は、祭りの歴史や伝統芸能の謂れや意味合いからも、新型コロナウイルスによる地域の様々な打撃からの克服、景気回復、経済の復興の象徴となっただけでなく、地域の芸能を後世へ繋ぐための思いも新たにした開催となった。

令和4年3月25日(金)・26日(土)・27日(日)

○開催期間中來場者数 20万人(のべ) ○出演団体 25団体



【NERIナビ】

【公式ガイドブック】

【目標・ねらい】

事業効果

① 情報端末の活用では、ホームページの内容の再構築により、遠隔地に居ながらにして祭りを身近に感じられる内容とした。関連商品ではアイデアの広がりを感じた。祭り当日はGPS位置情報システム「NERIナビ」の充実と運用により、観覧者の利便性向上に努めた。839500ガイドブックは両開きにして、各催し物の歴史や演舞の特徴、神社奉納時期についての掲載の他、飯田下伊那地域の自然や旧跡、特産品等の情報も広く掲載して、観光ガイドブックとしての機能も持たせた。祭り終了後にも使用して貰える物として作成した。

- ① 遠隔地に居ながらも祭りを楽しめる工夫と祭り観覧者の利便性向上のためのサービス
- ② 祭りと祭り終了後も地域内観光を楽しめるガイド誌の作成

※自己評価【A】

- 【理由】
- ・祭り関連商品では、様々な品が掲載された
  - ・GPS位置情報システム「NERIナビ」へのアクセス数が大幅に増加した
  - ・公式ガイドブックには団体や観光の

今後の取り組み

通常開催とならなかった祭りであるが、七年に一度の祭りの意味合いと地域や関係する人々の思いをどの様に繋げられるかが大きなポイントであった。伝統を重んじながらも、ホームページ内の充実や公式ガイドブックの作成、仮設観覧席の設置など、新しい事を積極的に取り入れられた事は大きな成果であった。7年後を考えた時、地域交通事情や出演団体内の継承など祭りを取り巻く状況は厳しくなる事が予想される。しかし、その変化に対応していかななくてはならない。デジタル技術を更に取り入れたり、全く新しい事を検討せざるを得ない事もある。その様な環境の中において、やはりお練りまつりには出演したい、とどの団体からも熱い声上がる。伝統芸能を引き継ぐ世代を取り込んでいく為の一手が必要になる。お練りまつりホームページは引き続き閲覧できるようにしておき、フォトコンテストの作品の公開や販路開拓の場として活かす。また、南信州民俗芸能推進協議会と連携し1年前イベントなどの検討も面白いかもしれない。